瀬戸小だより

ふれ合う　認め合う　共に学ぶ　笑顔あふれる瀬戸ケ谷小学校

mail:y3setoga@edu.city.yokohama.jp　http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/setogaya/

学校だより２月号
令和３年１月２９日

横浜市立瀬戸ケ谷小学校
校　長　　松永　淳子
TEL 713－8336 FAX 713-9749

瀬戸ケ谷小学校　検索

言霊（ことだま）の力を借りて

副校長　大久保　作織

寒さの合間に小春日和の日があり、春の兆しを感じる頃となりました。学校では紅梅が咲き始め、花壇の菜の花の黄色がまぶしく、１年生が大事に育てているヒヤシンスなどの球根の芽も顔をのぞかせています。フラワーボランティアの方々によってきれいに手入れされた正門前の花壇やプランターの花を見ると、ほっと一息つくことができます。

12 月末に山口県のマラソン大会で、東京パラリンピックの女子マラソン(視覚障害 T12)の代表に内定している道下美里さんが、2 時間 54 分 13 秒の世界新記録をマークして優勝したというニュースを見ました。その翌日に中学校でトークショーが開かれ、そこで道下さんは中学生に、人生の節目で背中を押してくれた考え方として「私ならできる」という言葉をあげたそうです。また、伴走者の一人志田さんは、つらそうに走る道下さんに「ペースが落ちている」とは言わず、「全力を出し切ろう」「肩の力を抜いて」と励ましたそうです。

前向きな言葉は、大きな力となります。本校の教職員は、「できないこともあるけれど、『今だからこそできること』に目を向けていこう」と意識して声をかけていますが、瀬戸小の子どもたちはそれに応え、本当に前向きに頑張っています。例えば体育では、普通に行えば密になってしまう競技をどのようにすればソーシャルディスタンスを保ちながら行うことができるか、子どもたちは知恵を出し合います。「ルールを工夫して」といっても、例年ではなかなか工夫できないこともありますが、今年は工夫しなければその競技ができなくなってしまうのです。新しい学習指導要領で求められている「身近な生活の中から課題を見付け、その解決を目指して思考し判断する」という力をつけるには、今年は絶好の年だとも考えられます。自分たちの考えたルールで楽しそうにゲームをしている子どもたちを見ながら、目に見えない力がどれだけついたのだろうと想像しました。

今のような状況で、子どもたちにもがまんしなければならないことはたくさんあったでしょう。「もう嫌だ」「何で今年は…」と言いたくなったことも、一度や二度ではなかったはずです。でも、だからこそ、前向きな言葉を使うことで現実をよい方向に変えていくことができると信じて、私たち教職員は子どもたちに前向きな言葉で語り、マスクの下でも笑顔で接していきたいと思っています。

日本には「言霊（ことだま)」という言葉があり、声に出した言葉に魂が宿るという考え方があります。(英語でもそのまま「kotodama」と言うそうです。）ご家庭でも、お子さんと一緒に言霊の力を借りて、不安を少し和らげながら生活していただければと思います。